

## 実践事例④ 荒川区立ひぐらし小学校

### 1 取組・活動名

「あいさつし隊」

### 2 取組・活動のねらい

- 児童一人一人が学校・地域の一員であるという意識をもって生活できるようにする。
- 社会に貢献していこうとする気持ちを育む。

### 3 教育課程上の位置付け

「登校時間帯（課外）及び学級活動・常時活動」

### 4 実施上の工夫

- ・ 挨拶の意義や形について指導し、理解を図る。
- ・ 一体感をもって活動するために、ボランティア活動の時にはタスキを掛ける。
- ・ 取組の成果を実感できるように、カードへ記録する。
- ・ あいさつ運動の活性化を図るために、全学級を一週間ずつ割り当て、あいさつ運動週間として活動する。
- ・ 毎朝の活動に積極的に取り組めるよう、校長・教職員が毎日校門に立ち、率先してあいさつ運動を行う。

### 5 本取組・活動の内容



- ・ 登校時間帯の15分間、子供たちが正門を中心に学校に沿って並び、登校する友達や、通勤通学途中の地域の方々に挨拶をしている。
- ・ できる時にできる範囲で参加し、数分間の参加でも歓迎しており、多い日には80名を超える子供たちが並ぶ。
- ・ 自らの意志で参加する活動であることから、挨拶ボランティア「あいさつし隊」と呼び、あいさつ運動週間を設けて各学級が輪番で立つ日を設定して全員に体験させることで、活性化を図っている。



- ・ ひぐらし小学校では、挨拶の際に「分離礼」を指導している。相手をしっかり見て挨拶の言葉を伝えてからお辞儀をする挨拶の仕方、より丁寧に、心を込めることの大切さを意識できるようにするためである。
- ・ あわせて、「挨拶とは相手に心を開き、近づくことである」という挨拶のもつ意味を学び、振る舞いの意味を理解することで挨拶を大切にす意識がより高まると考え、全校朝会や授業の号令の挨拶に加えて「あいさつし隊」の活動でも丁寧な挨拶の指導を心がけている。

と



- ・ ひぐらし小学校では、自分で考えて行動した活動の記録を、目に見える形で残す取組をしている。
- ・ 「ボランティアの花」と題して、カードに記録し、ボランティアの花が満開に咲く頃には、ひぐらし小学校・日暮里の地域に温かい思いやりの心が溢れるというゴールイメージを描くことを意図している。
- ・ 毎朝の「あいさつし隊」と、月に1度、地域の日暮里駅前の掃除に行く「おそうじし隊」、その他にも自分にできることを考え、目標をもって取組を続けられるように工夫している。

## 6 成果

- ・ 「自分から挨拶をしたときに、地域の人から挨拶が返ってくる」体験を通して、気持ちが通じる心地よさや進んで活動する気持ちよさを実感することができた。また、挨拶の大切さを実感することができた。
- ・ ボランティア活動に参加することで、学校や地域を自分たちで作っていかうとする意識をもつことができた。
- ・ あいさつ運動に全校で取り組むことで、学校全体が一つにまとまる一体感を感じることができた。
- ・ 活動した記録を目に見える形に表すことで、児童一人一人の意欲を高め、達成感を味わうことができた。